2023年度・第1回未来会議（全体会）議事録

鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）会長　須都　紘
副会長兼書記・広報　伊藤　智子

日時：　2023年4月23（日）13：30～15：20

場所：　西集会所

出席者（順不同、敬称略）：
須都　紘（会長）、黒部　實（副会長）、伊藤　智子（副会長・書記・広報）、
鎌田　卓（事務局長・会計）、中世古　昭一、三室　哲哉、黒田　勝行、田口　信義、
山田　修、中川　浩光、山地　祐輔
オブザーバー：　中尾節子
欠席：　山田　勲、平尾　英城、渡辺　昇、蔵田　かほり

配布資料：
① 令和5年度第1回（4月度）未来会議（全体会＆分科会）議題（案）
② 2023年度　未来会議構成員　名簿
③ 2023年度　鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）　役員名簿
④ 鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）　2022年度　決算収支報告書
⑤ 鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）　2023年度　予算書
⑥ 未来まちづくり会議　子育て分科会　報告書　2023年4月23日
⑦ 未来会議イベント検討資料　鹿ノ台春まつり（仮称）
⑧ 令和5年度　鹿ノ台春まつり（仮称）実行委員会体制（案）
⑨ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線　実証運行　乗車実績（人数）R5.3月度
⑩ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線 実証運行実績 分析【最終】令和5年3月度
⑪ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線 実証運行　乗車実績（人数）令和5年4月度（～4/19）
⑫ 『鹿ノ台コミバスニュース No.7』2023年5月1日より運行ダイヤを一部改正します。

会長挨拶

未来会議も3年目に入った。今後も、地域社会における中長期的なまちづくりの課題を検証し、優先度の高いものから事業化を進めていきたい。2023年度は重点施策として、①鹿ノ台中央公園の魅力向上のためのプロジェクト、②鹿ノ台春まつり（仮称）の実施に向けて取り組みを進めていく。この他に、中長期的に取り組むべきテーマがあれば、ご提案頂きたい。必要に応じて分科会を立ち上げ、取り組んでいく。

連合会連携担当の未来会議構成員の着任について

今年度の自治連合会の総務担当副会長になられた中川浩光さん（西二丁目自治会長）に、連合会連携担当として未来会議構成員になっていただいた。

中川さん：　鹿ノ台に住んで約30年になる。評議員になるのは3回目であり、今回は抽選で自治会長になったが、やるからには1年間、いろいろな人と知り合い、鹿ノ台の生活をより楽しくしていきたい。

2023年度の未来会議構成員について

2023年度の未来会議構成員の名簿について記載内容を確認した。この内容に基づき自治連合会の名簿を印刷する。役員は引き続き、会長を須都　紘、副会長を黒部　實、副会長兼書記・広報を伊藤智子、事務局件会計を鎌田卓が務める。また、中川　浩光が連合会連携担当を務める。

2022年度決算収支報告書

・収入は、前年度繰越金26，606円と、連合会からの運営助成金100，000円で、合計126，606円である。
・支出は、事務消耗品（プリンターのインク・用紙代）13,945円、印刷コピー代39，382円、会議費（ふれあいホール使用料）2，620円、イベント開催費（森のコンサートの機材費・飲料代）13，832円、雑費（集会所エアコン使用料）2，420円だった。当期支出の合計は72,199円であり、当期収支差の54,407円を次期繰越金とした。
・この決算報告については、4月19日に会計監査人の中世古　昭一さんから適正であるとの承認を受けた。

2023年度予算

<u>・2023年度の未来会議の重点施策</u>：
〇子育て分科会は、①新規転入促進の一環として、アイデア募集やワークショップの開催を通じて、鹿ノ台中央公園の魅力向上の取り組みを推進する、②「春まつり（仮称）」の子どもイベントを企画・実施していく、③「鹿ノ台放課後子ども教室にじ」を支援していく。
〇高齢者分科会の取り組みをベースに設立された「支え合い委員会」の活動を支援していく。
〇交流分科会を中心に昨年実施した「森のコンサート」を発展させ、関係団体との連携の下で実行委員会を立ち上げ、2024年春に「春まつり（仮称）」を企画・実施する。
〇自治連合会ホームページにおいて、転入促進の観点から鹿ノ台の情報を対外的にも発信していくため、連合ホームページ委員会のメンバーとなった未来会議構成員2人が一層の内容の充実に貢献していく。

〇その他、今後の中期まちづくり課題を抽出し、解決策の検討を進める。

2023年予算書：
・この予算は、2022年度第10回未来会議(1/22)において、「鹿ノ台未来会議2023年度予算案 V3」という資料に基づき、承認済みである。
・収入は、連合からの運営助成金が今年度から5万円となったため、これに前年度繰越金の54,407円を加えた104,407円である。
・支出は、事務消耗品費は2022年度の実績に基づいて15，000円、印刷コピー代は2022年度の実績から高齢者分科会の使用分を差し引いた32，000円とした。交通費は1,000円、会議費は連合との連絡会(1回)とワークショップ(3回)の会場費として20，960円、イベント開催費は子育て分科会として17，000円計上している。雑費として西集会所のエアコン使用料を2，000円(分科会数が減ったため減額)とした。以上の支出合計は97,960円で、当期収支差6,447円を次期繰越金とした。

質問： 春まつりの予算は計上されていないのか。
回答： 予算編成の際には2024年4月の実施を検討していたので予算計上していないが、桜の開花時期によっては3月末の開催になるかもしれない。その場合は予備費で対応できるかどうか、改めて検討する。

→2022年度決算、および2023年度予算を承認した。

子育て分科会報告

鹿ノ台中央公園をもっと楽しむためのワークショップ：
・鹿ノ台を「子育てしやすいまち」「こどもを大切にするまち」にすることを通じて、子育て世代の住みやすいまち、転入したくなるまちにしていきたい。そのための取り組みの一つとして、鹿ノ台のシンボルであり、みんなの憩いの場である中央公園をより楽しむための方法をみんなで考え、実現していくためのワークショップ(全3回)を開催する。
・ワークショップの案内は自治連合会の回覧と、小・中学校での戸別配布で行ったが、参加申し込みが少ない。現時点では、子育て分科会と未来会議からの参加者と合わせて20名である。ワークショップでは、小グループでの話し合いと全体での話し合いを組み合わせ、皆が気軽に議論できる場をつくる予定なので、是非、周りの方をお誘い頂きたい。
・5月20日(土)の第一回は、生駒市みどり公園課からもご参加いただき、みどり公園課の取り組み(Park Remake Quest)をご紹介いただく。また公園で市民がして良いこと、してはいけないこと、などのご説明もして頂こうと考えている。
・全3回を予定しているが、1回だけの参加でも構わないので、参加して頂きたい。参加して下さる方は、チラシの QR コード経由での申し込みでも、分科会メンバーに直接電話やメールをいただいても構わないので、できるだけ事前申し込みをお願いします。
・2回目か3回目には中央公園に実際に行き、現場を見て話し合うことも考えている。
・写真等の開催当日の記録は、黒田さんにお願いする。

鹿ノ台春まつり（仮称）の実施について

・鹿ノ台の春のまつりとして、桜かツツジの時期を検討した結果、来年の3月末か4月初頭の週末、桜の開花に合わせて中央公園を中心に「春まつり（仮称）」として検討を進めたい。中央公園を舞台に、鹿ノ台の住民やさまざまな活動団体のメンバーが集い、互いに知り合い、交流する場としたい。「鹿ノ台の春は春まつりから」というような風物詩になれば良い。
・実施にあたり、自治会、評議員に動員などの負担はかけず、会場での費用はほとんど使わないように進める。
・中央公園でのイベントとしては、A. コンサート（地元の団体を中心に）、B. 子どもイベント（紙芝居・ヨーヨーなど）、C, キッチンカー、D. マルシェ、フリーマーケット、E. 桜美会・同好会のお花見、F. 太極拳・ヨガ・ダンスなどクラブのデモンストレーション（会員募集）、G, 絵画・写真・川柳などのクラブによる春まつりをテーマとした活動（オータムフェスタで展示）などを考えている。当該の団体に相談して企画を進めたい。
・その他、第6緑地の桜を起点、中央公園を終点とする花回廊ハイキング・ツアー（ECOKA 委員会・ハイキングクラブに協力を要請）を検討している。
・開催に向けて未来会議のなかで実行委員会を組織する。5月から毎月、未来会議全体会の後の分科会の時間に会議を行う。
・実行委員会の担当者は、会長は須都　紘、委員長は黒部　實、コンサートとキッチンカーの担当を黒部、出店担当を山田修、子どもイベント担当を伊藤智子、会場設営担当を山田　勲、警備担当を鎌田　卓、広報担当を有信いづみ（子育て分科会専門委員）、会計担当を鎌田にお願いする予定である。

質問： 未来会議は5年先の課題を検討する場だと思うが、なぜこのようなイベントを実施するのか。すでに納涼祭を手間暇かけてやっている。予算も足りないので縮小もしている。そうした中、別途にぎわいをつくらねばならないのか。組織図を見ても非常に大規模なイベントになっていきそうで抵抗感がある。
回答： 未来会議が議論して決めた5つの柱の一つが「交流の促進」であり、3つの分科会の1つがこのテーマで活動してきた。この交流分科会を中心に昨年4月に「森のコンサート」を開催した。その時の経験と反省を踏まえ、中身を少し変えて、中央公園を使った賑わいづくりを行おうとしている。未来会議は中長期的な課題を検討する場であるが、実現可能な事項については実施していく場でもある。この春まつりも、単年で終わらせず、何年にもわたり続けていけたら良いと考えている。
回答： 鹿ノ台には夏に納涼祭、秋にオータムフェスタがある。オータムフェスタは2週間にわたるイベントをいきいきホールの運営委員会メンバーとサポーターで実施している。これらに比べると、今回提案している春まつりは、各団体に参加を募り、参加する団体に場所を提供し、それぞれにイベントを実施していただく形なので、自治会、評議員の動員もなく、予算も最小限に収める考えで別途申請する予定もない。それほど大きな予算と労力は必要ないと考えている。
回答： 納涼祭は連合自治会のメインプロジェクトであり、評議員の方が仕事を分担されているが、今回提案した春まつりは去年の「森のコンサート」と同じで、未来会議主催のイベントであり、未来会議メンバーとボランティアの方々で実行

するものである。評議員の皆さんにはチラシの回覧以外は仕事をお願いしない予定である。

意見：「森のコンサート」の反省を踏まえ、より良いものを実施しようというスタンスだと思うが、非常に人手がかかるイベントであり、未来会議がすべきことなのかは疑問である。未来会議は5年後を目指して課題を抽出するのが目的であり、そちらに集中して欲しい。既存の17条委員会でできていないことをやるという意味では、子育て分野は未来会議でやって頂いて良い。だが、このようなイベントは、やるなら継続的にやって欲しいが、新たに組織をつくり、そこに委託したらいいのではないか。

意見：未来会議の高齢者分科会が「支え合い委員会」をつくり、我々はそこで自ら活動していこうとしている。これは未来会議の大きな成果である。子育て分科会が放課後子ども教室を生み出し、活動していることも同様に未来会議の成果である。そうやって一つ一つ新たな種をまいて活動を生み出していき、5年後、10年後の鹿ノ台がよりよいまちになっていくことに自ら貢献する。それこそが未来会議のすべきことであり、別組織を作って誰かにお願いすれば実現するというものではない。

意見：未来会議で取り組むべき課題については、ご提案頂ければ皆で議論し、合意に至れば分科会を立ち上げ、具体的に取り組んでいく。春まつりに全体で取り組んでいくとしても、そのスタンスは変わらない。

意見：昨年の「森のコンサート」は交流分科会が実施主体だったが、今回は未来会議全体で取り組むという形に格上げするということか。だとすればそのような合意形成が必要だ。

意見：未来会議は企画・提案・実行をすべて担う組織なのか。未来会議に実行機能まで持たせるということで良いのか。実行する組織をどう作っていくか、育てていくか、話し合うべきではないか。

意見：未来会議は実行まで責任をもって行う組織だと認識しているから参加している。パソコン教室もここで提案し、実施まで至っている。

意見：できれば春まつりを継続していただきたいので、いつまでも未来会議で実施するのではなく、然るべき時期に17条委員会に実行部隊を映して継続を図るべきではないか。

意見：未来会議でずっとやる必要はないかもしれないが、17条委員会にすべきかどうかも今は決められない。一度誰かがやってみて、結果を見て、以後継続するのかどうかを含めて、運営の形を考えていけば良いのではないか。

質問：TOIROもこの中でやってもらうのか。鹿ノ台のイベントでは、鹿ノ台のTOIROとそれ以外のTOIROを分けてエントリーして欲しいとお願いしてきた。

回答：前回は鹿ノ台の外からきたグループが大半だったが、次回は鹿ノ台のグループがメインとなるようにしたい。

意見：春にはイベントがないので、春に交流促進のためのイベントを実施するのは良いと思う。やるからにはきちんと広報し、たくさんの人が来てくれるようにして欲しい。今人気のコスプレの大会を実施して審査もするとか、企画にも力を入れて、総力を挙げてやって欲しい。

質問：　自治連合会からは申請担当という形でどなたか関わっていただけるのか。自治連合会のメンバーがいない実行委員会で話を進めてよいものか、気になっている。
回答：　自治連合会のメンバーも仕事が多く手一杯であり、この件については未来会議全体会で話された内容について連合に報告はするが、実行委員会のメンバーになるのは難しい。申請書の作成等は未来会議のメンバーにお願いしたい。

質問：　ビデオや写真撮影などの記録は残してもらえるのか。
回答：　記録担当を黒田さんにお願いできればありがたい。
→黒田さんに記録担当になっていただいた。

鹿ノ台コミバス3月度乗車実績について（報告）

3月度の乗車実績：
・R5年3月の実証運行の日数は14日、乗車実績は累計677人、一日あたり平均48.4人である。1日あたり50名を超えた日が6日、60人を超えた日が2日あった。
・実証運行が始まった8月から3月までの8カ月間では、運行日数が98日、利用者合計は4,383人、1日あたり平均は44.7人である。実証運行は今年12月まで継続するが、評価対象となる期間は今年7月までの1年間である。
・利用促進策として、いそかわ協賛キャンペーンを5月末まで2か月間延長して実施してもらっている。いきいきホール前バス停で乗車または降車する度に補助券1枚がもらえ、10枚でいそかわの買い物券（500円券）がもらえるキャンペーンである。キャンペーン開始後の3か月間をそれ以前と比べると、いきいきホール前での乗降人数は1日あたり2．2人（26．8％）増加している。
・鹿ノ台オープンガーデンにコミバスで往復してチューリップを鑑賞するキャンペーンも実施した。実施日の乗車人数は、4月12日（雨天）で59人、14日（快晴）は100人と跳ね上がった。4月度の19日までの実績は、1日あたり56．4人と大きく増えている。今後もさらなる利用促進策を検討していきたい。

質問：　1日あたり何人以上で本格運行が可能になるのか。
回答：　何人以上という明確な人数は決まっていない。運賃収入が判断基準とされるが、現在の水準（1日あたり46～47人）を維持できれば可能だと思われる。3月までの水準だと、自治会負担分も加えて自己負担割合が29．88％で、必要とされる30％にわずかに届いていない。今後乗車が少し増えれば基準がクリアできると考えている。

ダイヤ改正のお知らせ：
5月1日からダイヤが一部改正される。新しいダイヤは戸別配布し、連合ホームページにも掲載した。

次回

日時:　2023年5月21日(日) 13:30～16:30
「南北」の構成員および幹事は13:15集合

場所:　西集会所

以上